

## 2022年度 第33回 中唐文学会大会のお知らせ（第2号）

残暑厳しき折、会員の皆様にはお元気でお過ごしでしょうか。

第33回中唐文学会大会は、10月7日（金）の15時より、以下の要領で開催いたします。ふるってご参加くださいますようお願い申し上げます。なお、昨年度と同様に新型コロナウイルス感染拡大の現状に鑑み、すべてのプログラム（※懇親会を含む）をオンラインで開催することにいたしました。大会・懇親会の参加のお申込みは、この「お知らせ第2号」の2頁「お願いとお知らせ」にご案内がございます「お申込みフォーム」より行ってください（お申込みの方法は昨年度と同じです）。

**会 場：Web会議サービス「Zoom」を用いてオンラインで開催いたします（参加無料）**

**日 程： 10 月 7 日 （ 金 ） 15時開始**

~~~~~  
14 時 30 分～ 「Zoom」 ミーティング・ルームへの入室開始（受付不要）

15 時 00 分～ 開会の挨拶

・ **研究発表（15時10分～15時40分）**

題 目：明代における白居易の評価 一唐汝詢『唐詩解』を中心に一（15時10分～15時30分）

発表者：陳 禕璇（九州大学大学院、博士後期課程一年）

質疑応答（15時30分～15時40分）

休憩（15時40分～15時50分）

・ **【特別企画】中唐文学会の研究会・読書会について（15時50分～17時30分）**

趣旨説明（15時50分～16時00分）

発表① 劉禹錫読書会（16時00分～16時20分）

発表者：長谷川真史（東京学芸大学）

発表② 東山之會（16時20分～16時40分）

発表者：加藤聰（京都女子大学）

発表③ 『詩詞曲語辞典』翻訳研究会（16時40分～17時00分）

発表者：高橋未来（大阪公立大学）

質疑応答（17時00分～17時20分）

休憩（17時20分～17時30分）

・ **総会（17時30分～18時00分）**

・ **懇親会（18時00分～19時30分）**

※大会と同じく「Zoom」上で行います。途中参加・途中退室可。

※お食事・お飲み物は各自でご用意ください。

~~~~~

## お願いとお知らせ

- ▼本年度の大会および懇親会の参加のお申込みは、下記の「お申込みフォーム」より行ってください。
- ※「お申込みフォーム」は中唐文学会のブログにも掲載予定です。下記URL、もしくはQRコードからお申し込みが可能です。
- ※「お申込みフォーム」にお申込み頂いたメールアドレス宛に、10月3日（月）以降、順次ZoomのURLをお送りいたします。
- ※Zoomミーティングに参加するには、パソコンにカメラやマイクが内蔵されているか、外付けのWebカメラを用意する必要があります。各自でご確認のほど、宜しくお申し込み申し上げます。なお、Zoomの技術的なサポートにつきましては対応いたしかねます。あしからずご諒解ください。
- ※ご不明の点は幹事までお問い合わせください。

### 【2022年度 中唐文学会 大会・懇親会 お申込みフォーム】

URL : <https://form.run/@changgu-1662527481>

QRコード :



- ▼本会は、会費の納付で会員資格継続の作業を進めます。  
同封した振込用紙に金額をご記入の上、お振り込み下さいますようお願いいたします。

**【振込先】      口座番号00100-8-631654      口座名称 中唐文学会**  
**正会員3,000 円、準会員（会報不要の方）1,000 円**

準備の都合上、会費振込および大会・懇親会の参加のお申込みは  
**9月30日（金）まで**にお願い致します。

#### 各問い合わせ先

大会関連 :                      長谷川真史 (changgu@u-gakugei. ac. jp)  
幹事(会報) :                      洲脇武志  
幹事(会計) :                      高橋未来  
幹事(広報・名簿管理) :        長谷川真史

## 【研究発表要旨】

「明代における白居易の評価 ―唐汝詢『唐詩解』を中心に―」陳 禕璇（九州大学大学院、博士後期課程一年）

周知の通り、白居易の詩歌は中唐から盛んに読まれ、大流行した。しかし明代になると唐詩選集における白居易詩の収録数量が急に減少する。高棟『唐詩品彙』には、李白詩を386首、杜甫詩を271首収録するが、白居易詩は28首しか収録していない。そして明代の唐詩選本は主に『唐詩品彙』から影響を受け、中唐詩人に関する評価が盛唐より低いため、『唐詩正聲』は白居易詩を0首、『唐雅』は11首、『唐詩選』は0首、『唐詩所』は0首、『唐詩解』は8首、『唐詩歸』は7首収録する。しかし、『唐詩解』以降、白居易への重視はまた回復し、『唐詩鏡』は204首、『石倉唐詩選』は206首を収録している。『唐詩解』を撰した唐汝詢は『唐詩品彙』の理念を継承しながら、白居易の詩文を8首しか収録していないが、その注釈と評釈では、高棟と違い、白居易の詩文に高い評価を与えている。故に、白居易に対する受容及び明代唐詩学の発展の転換点とえば、発表者は『唐詩解』と『唐詩鏡』だと考える。

本発表では明代各唐詩選本における白居易の詩作の収録数量と評価をめぐり、明代学者がどのような意識や観念を持ち、白居易を評価していたのかについて考察を加えてみたい。また、『唐詩解』は転換点として、どのように白居易詩を解説し、どのように明末と清代の唐詩選集に影響を与えたのかについて、若干の考察を行い、明代における白居易への関心の変化について立論を試み、その他の資料分析から明らかになったことを報告したいと思う。

## 【特別企画概要】

「中唐文学会の研究会・読書会について」

今年度の『中唐文学会報』第二十九号には、華南師範大学の蔣寅先生（旧・中国社会科学院）がご寄稿された丸山茂先生の追悼文が掲載される。蔣寅先生は1997年来日の際、中唐文学会の劉禹錫読書会において特別講演を行っている。今回、蔣寅先生が『中唐文学会報』をあえてご指名の上、追悼文をお寄せいただいた事情には、このような中唐文学会とのご縁があったからと拝察する所である。

さて、中唐文学会では、劉禹錫読書会のような、会員が自発的に発足した研究会・読書会が活動を行っている。地道な活動を継続し、論文や報告を『中唐文学会報』にご寄稿いただいている会もあれば、今般の疫禍や諸般の事情から活動が停滞している会もあるかと思う。今回の企画では、劉禹錫読書会、東山之會、『詩詞曲語辞辞典』翻訳研究会の三会から代表メンバーが発表を行う。それぞれにどのような歴史や成果物があり、いつ、どこで、どのようなメンバーで活動しているのか、今後はどのような展望、スケジュールで活動していくのか、といった点について紹介し、会員同士の交流を図るねらいである。また、「研究会に参加してみたい」「実はこのような研究会をしている・したい」というような会員の声も歓迎する所である。積極的な交流によって、さらなる学会の活動の活性化につながることを期待する次第である。（長谷川真史）

以上